

[原 著]

図書館情報（リテラシー）教育における スポーツ学部学生の利用に伴う動向について

堀内 担志¹⁾, 矢崎 美香²⁾

The trend of the library use by the student's faculty of sports science after receiving the library literacy education

Tanji HORIUCHI¹⁾ and Mika YAZAKI²⁾

Abstract

Kyushu Kyoritsu University has carried out the literacy education for library information for the first time by cooperating library and faculty of sports. The educational method is that library staffs made a lecture of application of library for all freshmen in the faculty. The purpose of this paper is to analyze the relationship between the effective library use and the improvement of their scholastic abilities by researching on using trend.

KEY WORDS: Literacy education, information education, library literacy,

1. はじめに

スポーツを学ぶということは人生観を学ぶことである。前提として全人教育、心の教育を大きな柱とし、社会や組織の中で自分がどう動くのか、人をどう動かしまとめるのかといった人間のコミュニケーションの本質に関わっている。

また何のために大学に通い、大学で何ができるのかという問題意識を持ち社会人としての資質を研ぎ、社会の中におけるスポーツの意義と活かし方を学び、深い洞察力と知識を身につけるために図書館における図書館情報（リテラシー）教育を行うこととした。

2. 目的

各大学で行われている図書館情報（リテラシー）教育に伴い本学図書館においても同様の教育を行うこと

とした。現在、約93%の大学（平成17年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告より）において図書館情報（リテラシー）教育が実施されている。

しかし、図書館と学部との連携に伴う図書館情報（リテラシー）教育は本学において初めての試みであり、新境地を開拓することとなった。特に「人間基礎演習」の講義をもちいて図書館の利用及び活用方法を図書館職員が講義をすることにより、よりニーズにあった情報を取り入れ、教授することを目的とした。

現在スポーツ学部といえ情報流通の多い中、そのスキル向上は望まれており、今後の講義及びクラブ活動等、就職などにおいても必要不可欠な技術であることは間違いないことである。図書館と連携を図り1年生全員に対して数回にわたる講義を行うことにより身につける機会を与え習得させることをもう1つの目的とした。今回図書館においてもスポーツ学部においても双方の協力体制の整った指導ができるという意見が一

1) 九州共立大学スポーツ学部
2) 九州共立大学附属図書館

1) Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports
Science
2) Kyushu Kyoritsu University Library

致したため連携という形を取ることができた。

3. 実施内容の説明

図書館情報（リテラシー）教育講義の実施時期内容については、まず4月に新入生ゼミ（Step0）として学部全員（約270名）を対象に図書館ツアー、図書の蔵書検索をパワーポイントのスライドショーで説明を行い、検索を行う際のポイントとしてキーワードの切り出し演習をさせる。

その後、スポーツ学部の講義「人間基礎演習」の講義を使い前期に1回（Step1）、後期に2回（Step2-1, 2）演習講義を行う。

Step1ではStep0の復習を行い蔵書検索の検索方法の説明及びキーワードの切り出しを行い実際の検索画面を使い検索を行う。検索結果から自分の欲しい本3冊を取捨選択して検索結果記入票に記述する。

Step2-1は前期の復習及び応用として課題にそった検索を行った。Step2-2はさらに課題を難しくしてキーワードの切り出し及び資料の幅を広げ課題についての回答を出す方法をとった。

4. 図書館利用の変化

4-1. 学生の図書館認知度及び利用度

まず、新入生ゼミの際に実施したアンケート「図書館利用についての動向」からスポーツ学部学生の利用動向を分析し、学業に対しての意識調査を行った。

図1から入学前の高校の図書館（室）利用については、全体の29%の学生が「利用している」が、26%は「ときどき」、45%に至っては「いいえ」と半数以上の学生は図書館を利用してなかったことになる。

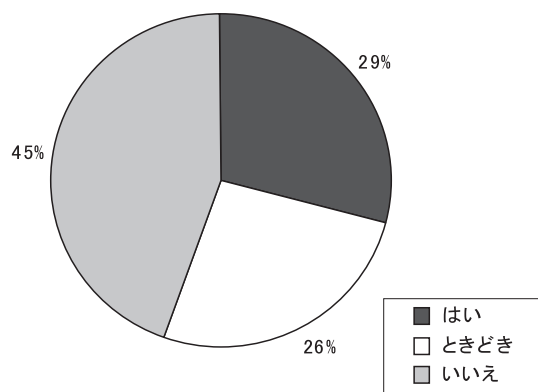


図1 高校の時に図書館（室）を利用していましたか

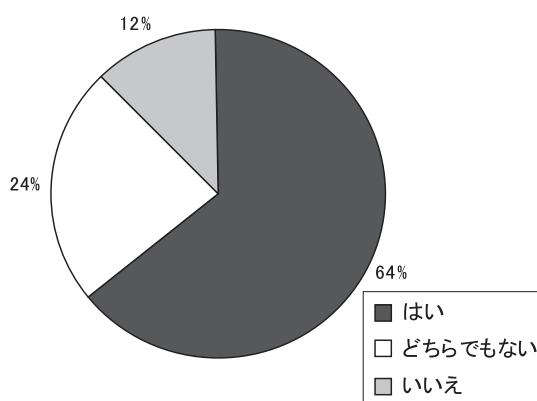


図2 新入生ゼミを聞いて図書館を利用しようと思いましたか

しかし、Step0の説明後のアンケートでは「図書館を利用しようと思いますか」という問いに対して64%が「利用しよう」と思ったと回答している。このことからスポーツ学部の学生は図書館に対し非常に興味を持ったことが伺える。

4-2. 受講後の図書館利用の変化

図書館利用の変化は、4-1で得たアンケートの回答結果がどのような数字で出てきたかを分析することにより学生の動向が示されるのではないかと考えた。次に受講後の図書館利用の変化として、入館者の数に注目してみることにする。

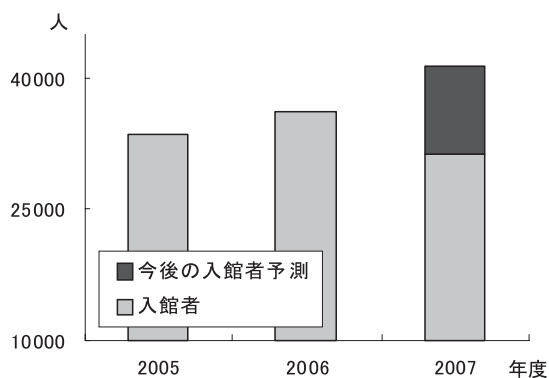


図3 過去3年間の入館者の変動

2007年度10月現在九州共立大学附属図書館の入館状況は、例年の10月時点の入館者数に比べ約5,000人増加している。今後の入館者の数字は予測ではあるが、2007年度終了時点で約40,000人の入館者が推測される。

このことは、スポーツ学部学生に対しての図書館情報（リテラシー）教育講座実施の反映として多くの学生が利用していることが如実に示されているのではないかと考えられる。実際入館者の統計については学部

ごとの種別分け統計はできないが、入館者に比例して貸出冊数の増加も見えて取れるためである。

では貸出冊数の分析から学生の動向をみることにする。

貸出冊数は過去3年間と比べ、今年度はかなりの貸出が行われており貸出冊数が増えている。これを学部別に比べてみることにする。

学部別貸出冊数をみると在籍者の多い学部がやはり貸出冊数が多い。しかし学部別の1年生（図書館情報（リテラシー）教育受講対象学年）の貸出冊数をみるとスポーツ学部学生の貸出冊数が多いことがわかる。

このことは、学部との連携によるものであり図書館情報（リテラシー）教育の積極的な取り組みが、学生の学習意識を促し貸出冊数の増加につながったのではないかとと思われる。

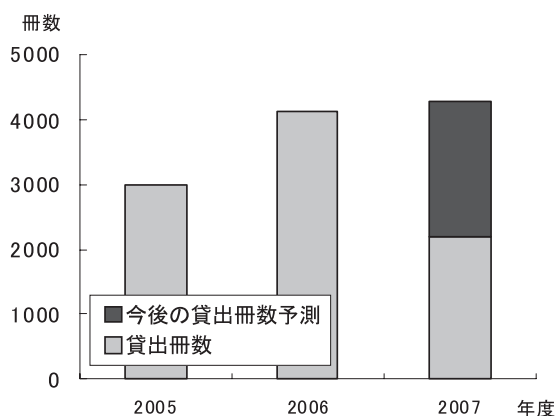


図4 過去3年間の貸出冊数の変動

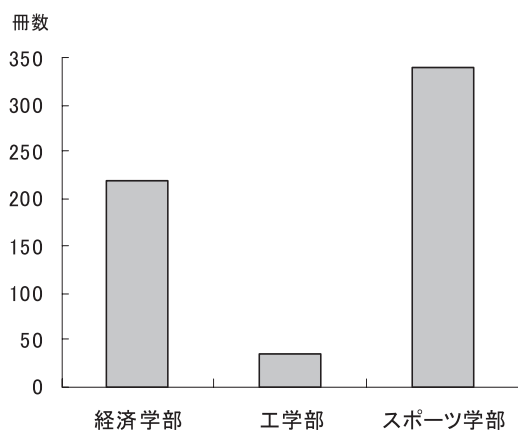


図5 2007年度、講義受講後の貸出冊数（学部1年生比較）

また、スポーツ学部の学生だけでみても対象学年の1年生において前年度と今年度を比較すると前年度に比べ図書館情報（リテラシー）教育の受講回数（昨年

度2回、今年度4回）が多い今年の方が貸出冊数は増えていることがわかる。このことから学生は受講して得たスキルを図書館において有効に活用しているのではないかと推測される。

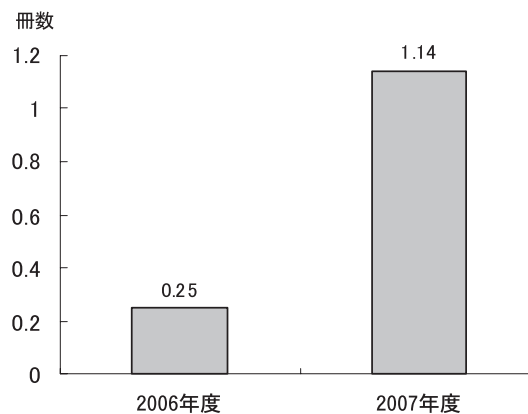


図6 年度別、スポーツ学部1年生1人当たりの貸出冊数

これを1年生全体の貸出冊数の割合から見ると図書館情報（リテラシー）教育受講後は、経済学部、工学部が全体の24%に対して、スポーツ学部は76%を占めている。これは、講義終了後の学生が、図書館を学習の一部ととらえ、他学部とは活用の方法が異なることも示しているのではないかと考えられる。スポーツ学部をあげての図書館情報（リテラシー）教育の取り組みは図書館と学部の連携を強くすると共に学生の学習意欲向上につながっているのではないかとと思われる。

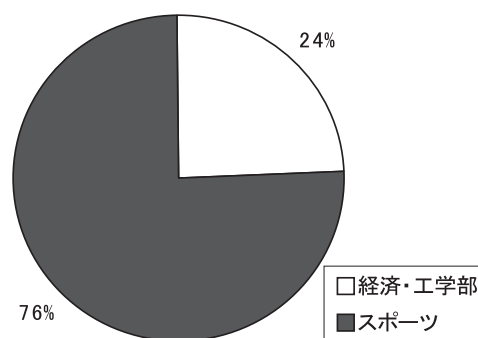


図7 講義終了後の貸出冊数の割合（学部1年生比較）

全体的な貸出冊数比較においてはスポーツ学部が図書館を利用していることがわかった。しかし、学生1人あたりの貸出冊数から利用状況を見るとまた違う側面が見えるのではないかと考え、1人当たりの貸出冊数を分析してみた。

図書館情報（リテラシー）教育を3学部共に比較す

るにはスポーツ学部設置年の2006年度からの昨年度と今年度を比較してみる。2006年度は、実施講座回数が全体的に少なかったこともあり、1人当たりの貸出冊数はどの学部を見ても1冊未満と少ないことがわかる。一方、2007年度は、これまで以上に学部間の連携を強め、講座数の増加によって1人当たりの貸出冊数は増えている。学部ごとにみると、経済学部・工学部の1人当たりの貸出冊数は、1冊未満、スポーツ学部の学生は1.14冊と多く、1人当たりの貸出冊数は、他学部 비해0.5～0.8ポイント高いことがわかる。

また1年生1人あたりの貸出冊数を年度別に見ると前年に比べ増加している。特にスポーツ学部の1人あたりの貸出冊数は昨年に比べ大幅に上がっている。このことから学生1人あたりの読む本が増え、学習する機会が多くなると共にその学生に新たな知識及びスキルが身についたと考えられる。このことから有効に図書館を活用していると考えられ、本に関する興味の高さが伺える。

表1 講義受講後一人当たりの貸出冊数（1年生）2006年度

	貸出冊数	一年生	一人当たり(冊)
経済学部	254	396	0.64
工学部	72	156	0.46
スポーツ学部	69	277	0.25

表2 講義受講後一人当たりの貸出冊数（1年生）2007年度

	貸出冊数	一年生	一人当たり(冊)
経済学部	220	343	0.64
工学部	35	108	0.32
スポーツ学部	340	298	1.14

5. 講義中の課題（検索）処理に要する所用時間の変化

学生の図書館情報（リテラシー）教育を行うことにより統計的な数字の変化をみることは出来るが、実際の学生本人のスキルがどの程度向上しているかを計らなければならない。

そのため講義中で行っている蔵書検索の所要時間の変化をみることによりスキルの向上度を見ることとした。まず課題にあったキーワードから検索を行い、欲しい本を3冊取捨選択して検索結果記述表に記入させる一連のプロセスを行った。これは、キーワードの

切り出しに要する時間、検索速度の時間、検索後の利用したい本の取捨選択し、それらの時間の課程3点をあわせた所用時間にどの程度の変化が出てきたかを計り考察した。

Step1の際には所要時間が早い人で25分程度、遅い人で40分程度要していた。個人差の開きも大きかったが、全体的に所要時間がかかった。しかし、Step2-1、Step2-2と受講回数4回目となると早い人で約10分程度、遅い人でも25分程度と検索時間がStep1の時よりかからなくなった。

この演習を行うことによりキーワードの見つけ方、発想の訓練及び検索結果の情報からすぐに取り捨選択する能力を養う事ができ、スポーツを行うときの思考の柔軟さ、とっさの判断力につながるものではないかと思われる。

この一連の作業の中で特に遅れが目立つ学生についてインタビューすると競技中の判断力の鈍さ、思考の柔軟さ、応用力の問題など様々な点があげられる点も注目すべきことだと思われる。

6. 調査結果

図書館情報（リテラシー）教育におけるスポーツ学部学生の利用に伴う動向について4. 図書館利用の変化、5. 講義中の課題（検索）処理に要する所用時間の変化に関する調査の中で、まず図書館の利用状況意識が図1と比較してもわかる様に図8のとおり半数以上が利用するようにかわった。

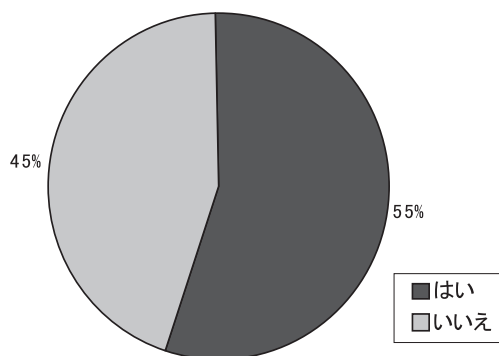


図8 新入生ゼミ後、図書館を利用していますか

また、検索方法の習得意識についても同様に図9では73%の学生が理解しているという認識を持っている。このことは貸出冊数の増加を見て取れるが、本を借りる際には必ず検索という手順が入ってくる。

この手順を踏んで本を探し、本を借りる流れにより貸出冊数が増加することになると考えられる。

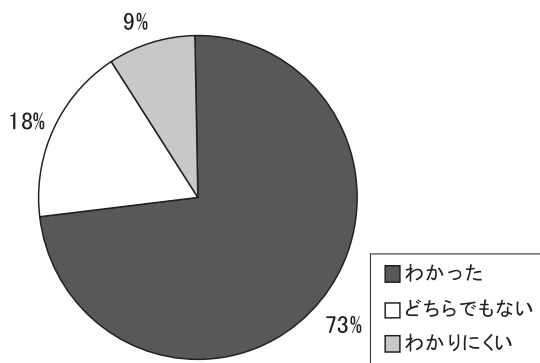


図9 新入生ゼミを受講後の検索方法の理解

検索においても重要なポイントとして実施内容の中にも組み込んでいるキーワードの切り出しについてである。このキーワードの使い方の理解度は図10のようにかなり高く、74%の学生が理解している。この数字は図9の73%の数字とさほど変わりなく約70%の学生は検索の際にもちいるキーワードの切り出しについて、的確なキーワードを選び検索しているといえる。

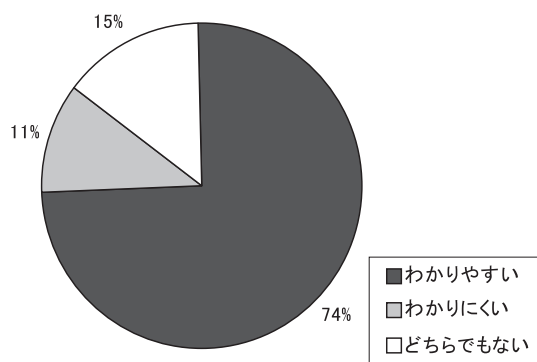


図10 キーワードの使い方は、理解できましたか

このことから繰り返し行うことによる動機付け習慣による図書館利用（活用）の有効性が伺える。今後この方法を定着させることによるスポーツ学部学生の調べ学習、レポート、卒論への導線となることを期待する。

これらの分析から図書館情報（リテラシー）教育を行うことの学生の動向変化は如実に現れ、確実に回を重ねるごとに学力レベルの向上が見られることは成果として高く評価できるのではないかと考えられる。ま

た図書館に対しての関心及び活用方法が熟知されていることがそれぞれの図・表から読み取ることも出来た。併せて学生の図書館利用動向についても詳細な動きを見ることができ、今後の学習支援及び指導の参考となると推察される。

7. 今後の動向

今後図書館とスポーツ学部との講義の連携により効果的な結果を得ることが出来る方法を模索しながら、学生の動向を見ていきたい。また現在の1年生2年生が3年生4年生へと学年が上がる事で、身につけなければならないスキルがどの程度習得でき、図書館活用ができるかをみることにする。

そのためには、更なる図書館情報（リテラシー）教育を展開することにより、学生がよりよい図書館活用を行い、多大な情報量の中から自分の欲しい情報を取捨選択できるスキルを身につけることが今後望まれるところである。また今回の調査研究は第一報とし、その後の卒論（レポート）等を書き始める3年4年次になった時点で再度同様の調査を行い報告を行いたいと考えている。

参考文献

- 平成17年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告
http://211.120.54.153/b_menu/toukei/001/index20/07012502/001.pdf
- 「情報リテラシー教育の実際情報リテラシー教育の実際」2002/11/21大学図書館職員講習会 千葉大学附属図書館 尾城孝一
<http://home.catv.ne.jp/rr/ojiro/literacy.pdf>
- 「情報リテラシー推進に向けた、大学図書館での利用指導の一考察」『～2002年度関西四大学図書館職員研修会参加報告』森井禄子 関西大学図書館フォーラム 第8号（2003）61p
http://www.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2003_vol8/2003_04_07.pdf
- 「金沢大学附属図書館中央館における利用者教育」橋洋平 大学図書館研究39,1992.3, pp. 55-62
- 「コンピュータ・リテラシーでなく情報リテラシーを」川村渥真の「知性の泉」：未来社会：世間の常識にアナタはだまされている！（1998年7月28日）
- 大橋史子「日吉メディアセンターにおける情報リテラシー教育の実践」「特集：図書館と情報リテラシー」『神奈川県図書館協会報』No. 209

[http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kla/kyouka
ihou/209/kyoukai020903.htm](http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kla/kyouka
ihou/209/kyoukai020903.htm)

- 「三重大学附属図書館大学図書館の実施する情報リ
テラシー教育支援 ～三重大学附属図書館の取り組
み～」三重大学附属図書館参考調査係 杉田いづみ
平成14年11月29日 第54回近畿地区図書館学科協議
会 発表資料

[http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/miedai_literacy.
pdf](http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/miedai_literacy.
pdf)